

## 京都大学「世界経済論」の系譜

京都大学は1898年に創設され、その後、創設当初よりある法学部から経済学部が枝分かれしました。「世界経済論」講座の歴史は法科大学時代に遡るもので、確認できる最も古い担当者は『武士道』などで国際的に認知されているあの新渡戸稲造です。その後、西洋古典学者・ソ連研究者で冷戦後の世界の自由主義的趨勢を予言したフランシス・フクヤマの祖父でもある河田嗣郎、長年にわたって京都府知事をつとめた蜷川虎三などの著名人を輩出してきました。ここでは、各担当者を簡単に特徴づけることを試みました。

「世界経済は、諸国民経済(国内市場)と国際経済の複合体であって、国際経済よりもより包括的な概念である」松井清著『世界経済論体系』日本評論社、序章より(13ページ)

着任年	部局	講座名	担当者	主著	解説
	京都帝国大学法科大学	商業経済学			
1898 明治 31	京都帝国大学法科大学	農業経済学	新渡戸稲造	『農業本論』	わが国農業経済学の草分けである。彼は後に国際連盟事務局次長として活躍した。彼は札幌農学校を卒業後、アメリカやドイツに留学、帰国後、京大教授や第一高等学校長などを歴任した。
1909 明治 42	京都帝国大学法科大学	農業経済学	河田嗣郎 *	『土地経済学』	河田の農業経済学は、のちに設置される京大農学部のような農業経営学でもなく、また東大農学部のようなドイツ農政学でもなく、経済学の一部門としての農業経済学の体系的確立を目指すものであった。農業経済学のパイオニアとして、河田が同分野の発展に寄与した功績は大きい。『歴史の終わり』のフランシス・フクヤマの祖父である。
1924 大正 11	京都帝国大学経済学部	外国貿易論	戸田海市	『商業経済論』	『京都大学百年史』によると同書第2編第1章に収められている外国貿易論が「世界経済論」の始祖とされている。古典派貿易論に立脚しつつ、近代的な要素価格論を独自の形で包摂したものであった。
1928 大正 15	京都帝国大学経済学部	植民(殖民)政策	山本美越乃 *	『植民政策研究』	
1930 昭和 5	京都帝国大学経済学部	同上・農業経済学	八木芳之助 *	『米価及び米価統制問題』	八木は、河田が目指した農業経済学の理論体系の確立という課題の一層の展開に努めるとともに、昭和恐慌で惨状を呈していたわが国農村と農業について本格的実証研究に取り組んだ。

1933 昭和 8	京都帝国大 学経済学部	国際経済 論	作田莊一 *	『世界経済学』	国家の本質を追究しつつ、「国際経済」と「万 民経済」とを包摂する世界経済学の確立を目 指す。World Economy(歴史は不均衡で複雑 的)vs. International Economy(歴史は単純) という世界経済論のエッセンスを初めて体系 化する。
1936 昭和 11	京都帝国大 学経済学部	国際経済 論	松岡孝児	『金為替本位制の 研究』	国際金融論の中に後進国問題を位置付け、 国際金融システムに見られる金融の支配・従 属関係を抽出した。
1939 昭和 14	京都帝国大 学経済学部	東亜経済 政策原論	谷口吉彦 *	『購買力補給案 - ネオ・インフレーション』	
1940 昭和 15	京都帝国大 学経済学部	東亜資源 論	蜷川虎三 *	『統計学研究 第 一』	
1941 昭和 16	京都帝国大 学経済学部	統制経済 論	柴田敬	『日本経済革新案 大綱』	
1948 昭和 23	京都大学経 済学部	世界経済 論	松井清 *	『世界経済論体系』	伝統的な古典派貿易論と近代貿易論の批判 的な検討を通じて、日本で初めてマルクス主 義的な体系的世界経済学を構築し、同分野 における指導的役割を果たした。
1957 昭和 32	京都大学経 済学部	世界経済 論	小野一一郎 *	『ブラジル移民実態 調査』	貿易論と国際金融論との結合に腐心し、世界 経済学に綿密な歴史分析を取り入れた。幕 末開港期の「東亜におけるメキシコドルをめ ぐる角逐とその本質」を追究した研究は、世界 経済システムに包摂されながら変化する日本 経済の金融的体質を初めて浮き彫りにした 業績として、国際金融史の分野に大きな影響 を与えた。また、小野は、日本における金本 位制の成立と当時の国際金融体制との関連 を考察し、注目された。
1977 昭和 52	京都大学経 済学部	世界経済 論	本山美彦 *	『貨幣と世界システ ム』	各国民経済間で作用する力学を重視する国 際経済学とは峻別する形で、世界システムを 基軸に置く世界経済学の理論・歴史・現状分 析を一層発展させようとしてきた。

注1)小野一一郎に関しては助教授就任年。

注2)担当者のうち「\*」印がつくのは経済学部長経験者。

[トップページ](#)